



## カンボジアの子どもたちに教育を

ニュースレター71号

2021年3月

### 2020年振り返り

皆様のご支援のおかげを持ちまして、当会は発足以来19年目を迎えました。本年もよろしくお願いいたします。

当会の最も重要な活動でありましたカンボジアの小学校の不足教科書の補填は、カンボジア政府の予算から調達できるようになり、無事に終了いたしました。これに代わる活動として非正規識字学校の運営継続支援と、生活や学業がより困難な状況にある子どもたちの生活費、学費援助のため現地スタッフが行っていた Drinking Friends' Fund(以下 DFF)への積極支援をはじめました。また、これとは別に現地へ出向いて現地の状況を知り、当会として出来る事を考え、進めていこうと考えておりました。しかしながらコロナ禍で現地へも行けず、また対面でのスタッフ会議もできませんでしたが、3月から Zoom 会議を開始し、コロナ禍でも出来る活動をはじめました。

『カンボジアに教育を！』という理念に基づいて活動してきた私たちですが、コロナ禍のカンボジアで少しでも子どもたちが安全な環境で勉強を続けられるよう、皆さまからのご寄付を現地に送り、マスク、消毒用アルコールスプレー、体温計の支援に大切に使用させていただきました。

あらためまして皆さまのご支援にお礼申し上げます。今後も変わらぬご支援をお願いいたします。

### ◆ 2020年活動概要

水谷充徳

- ◆ 1月… 2019年より公立小学校への教科書支援が政府の予算調達により不要となり無事に終了。資金に余裕ができたため、新たな支援を模索すべく、5月に現地調査や現地スタッフ・リティさんとの会議を計画。
  - ⇒ さしあたって以下を1月よりの実施を決定。
  - ① 識字学校への支援強化 … 具体策は検討予定であったが進まず。
  - ② DFF への支援開始 … リティさんの活動を資金面で協力することに
    - ⇒ 2人の少年に加え、1月から2人の少女への追加支援を開始。
- ◆ 2月… ニュースレター70号発行。今後の活動方針を掲載。

新理事：柳(りゅう)さんの自己紹介。

  - ⇒ 韓国との外交情勢が悪化している中、日韓の若者の友好関係促進に尽力。また韓国事務局再興の動き(創始者(禹)ウさん)の相談役としても期待。

- ◆ 3月… Zoom 会議を開始。コロナ拡大で5月に計画の現地調査を断念。
- ◆ 7月… ニュースレターに代えて、支援者の皆様に『活動報告はがき』を送付。
  - ⇒ カンボジアのコロナ感染者は6月末で141人、死亡者は0人。
  - 公立学校と、支援先の識字学校は3月末より休校 等を記載。
- ◆ 9月… 7～9月にご寄付を頂いた方々に『お礼はがき』を送付。
  - ⇒ ご寄付のお礼、カンボジアのコロナ感染者は273人、死亡者は0人。
  - 公立学校と識字学校は9月7日から再開(週3日の通学)
- ◆11月… 自修館での布製ナプキンづくりのワークショップに参加。
  - 自修館の先生、生徒さんたちとのミーティング実施。
- ◆12月… 12月3日から学校が再び閉鎖される。
  - 現地スタッフ・リティさんに、コロナ対策用品の支援(現地購入)を相談。
  - ⇒ マスク、アルコールスプレー、体温計 の購入を決定し、現地へ送金。
  - ⇒ リティさんより識字学校の子どもたちへコロナ対策用品が無事届けられる。



- ◆2021年1月… 1月の親睦会兼 Zoom 会議にリティさんも参加。
  - ⇒ 当会創立時からのメンバーとの歓談後、カンボジアの子どもたちの様子をリティさんにご報告いただいた。また、識字学校創設時から先生をされていたサンバスさんが、目のご病気により退職を余儀なくされることになり、新しい先生の採用を検討中、との報告があった。
  - ⇒ カンボジアの学校は1月11日より再開した。(週2～3日の通学)

## ◆活動報告1. コロナ禍のカンボジア振り返り

長内麻誉

カンボジアでは、日本に比べ感染者が圧倒的に少なく、また、しばらくの間は海外経由の感染者のみでした。このような状況の中でも、カンボジア政府は日本よりも徹底した感染防止対策を行いました。その内の一つとして、学校は長い間閉鎖されておりました。

これには、感染防止の他に、学校を感染者の隔離・療養施設として使う目的もありました。この間、オンライン授業が受けられる環境にある子どもたちは、オンラインで授業を受けることも出来たそうです。地域や学校により運用の違いはあったあとだと思います。オンライン授業を受けられる子どもたちと、そうでない子どもたちとで差が出てしまうことが心配です。

今は学校が再開されていますが、それでも週2～3回のみでの登校と、日本とは全く違う状況にあります。今後の学業の遅れが懸念されます。

幸い、当会が支援をしている非正規識字学校の子どもたちの中で、学校を辞めてしまった子どもはいません。子どもたちの親御さんの中では、観光業や建設業に従事しているため生活が厳しくなった方もいらっしゃるようです。しかし、学校を辞めなくてはならない状況にならなかったことはとても良かったです。DFFで支援する子どもたちも、私たちの支援により変わらず学校に通っているようです。皆さまのご理解・ご協力に今一度感謝申し上げます。

## ◆活動報告2. スタッフミーティングのオンライン化

水谷充徳

コロナ禍の影響もあり、昨年3月から当会もリアルでの会議から Zoom を使った会議へ変更し、毎月ディスカッションを重ねました。『2020年の振り返り』に述べたようにカンボジア支援も、そのやり方を議論し、模索し、少しずつ具現化してきました。

Zoom 会議は最初はぎこちない感じでしたが、今はみんなが慣れた結果、みんなが使いこなして会議を重ねることができました。今後もアイデアを出し合い、それを実行に繋げるべく、頑張りたいと思います。



## ◆活動報告3. 自修館でのワークショップについて

水谷充徳

昨年、11月14日に自修館中等教育学校(当会と主に日本での活動で提携中)で、メイドインアースさん(<https://www.made-in-earth.co.jp/>)主催の布ナプキンワークショップがあり、見学してきました。



冒頭、オーガニックコットンについて自修館の生徒さんが、一生懸命調べたことの詳しい発表がありました。内容もこと細かく、とてもよく調べてあり、聞き手としてとてもわかりやすかったです。その後、メイドインアースさんからの説明がありました。

メイドインアースさんは、『NPO 法人 Nature Saves Cambodia-Japan(NSCJ)』と共同で『WITH PEACE』という事業を行っています。カンボジアの地雷原から地雷を除去して開墾した畑でのオーガニックコットン栽培を支援するプロジェクトで少しずつでも地雷を除去することで安心して暮らせる環境を増やすこと、また、一般的に仕事に就きづらい地雷被害者やその家族の雇用を生むことを主な目的としています。

メイドインアースさんの説明後、ワークショップを開催。



自修館の生徒さんたちは、布、針、糸を使って布ナプキンを思い思いに製作していました。今回、見学させて頂き、メイドインアースさん、自修館のみなさん、ありがとうございました。

カンボジアで現地の方々と一緒に、畑作りからはじめ、木綿栽培、販売まで一貫したモノ作りをされていることにとっても感心いたしました。 ”カンボジア支援”という、我々と同じ志を持っていてもだいぶ違った活動をされているNPOさんのお話をきくことができ、とても参考になりました。今回学んだことを当会の活動のどこかで生かしていけたらと思います。

#### ◆活動報告4. カンボジアスタッフ・リティさんとの Zoom 懇談会

若松晴美

1月23日(土)12:00～13:00(日本時間)、当会初めての試みである、オンライン懇談会を現地スタッフのリティさんを交えて行いました。

昨年の活動計画として、2グループに分かれ現地の状況をさらに良く把握することを目的として、自費でのカンボジア訪問を予定していましたが、コロナ禍の影響で叶いませんでした。

今回の Zoom 懇談会は、設立時の理事メンバーの方々とリティさんとの久々の対面、また現在活動している中心メンバーの紹介ということで親睦会をメインに、また、通常はメールのやり取りでしたが、現地の状況をリティさんの声を通して伺うことができました。懐かしい話も飛び交い、終始笑顔の絶えない時間となり、今後の活動に更に気合いが入りました。オンラインの環境を余儀なくされたからこそ、今回のような会を開くことができました。

活動が制限される中、できないことを嘆くのではなく、皆で知恵を絞り出し、できることに思いを込め、一生懸命に取り組んでいく、そのような姿勢で今後も頑張りたいと思います。

リティさんとのZoom懇談会風景



◆ 識字学校を辞められるサンバス先生へのお礼

丸山芳彦

わたしたちの識字学校の先生の1人サンバス先生が目の病気にかかり手術を受けましたが術後の経過が思わしくなく、先生を続けられなくなりました。

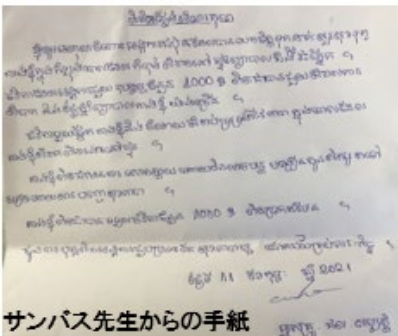
サンバス先生は、2003年に当会が始めた『アジア未来学校』(現在はこの事業から撤退)の創立時に協力してくださり、また2015年からはわたしたちの識字学校の先生をして頂いています。



5年前にやはり先生をされていた夫を亡くし、経済的にも厳しいなか、女手一人で8人のお子さんを育てている『肝っ玉母さん』です。5人の子どもたちは社会人になりましたが、今なお娘さんお1人は医学部生、下の男の子2人もまだ学生です。

12月のZoom会議で、長年当会の活動に貢献して頂いたお礼をしようということになり、これから苦しくなる家計の足しになれば、と1000ドルを差し上げることに決めました。

写真は当会を代表してリティさんからサンバス先生へのお礼をお渡ししているところです。サンバス先生からはお礼のお手紙をいただきました。



サンバス先生からの手紙

お礼

私が目の手術で外で働けなくなったことへの日韓アジア基金のお気遣いに感謝します。1000ドルのご寄付は、目の医療費や私の支払いに使わせて頂きます。また毎日の家計の足しに使わせて頂きます。健康上の問題で、識字学校で子どもたちを教えることができなくなり申し訳ありません。

日韓アジア基金の皆様のご健康とご成功を祈っております。

2021年2月11日 Phal Sambath(パル・サンバス)

◆ **事務連絡**

齊藤乃章

2020年1月27日～2021年2月5日に会費・ご寄付を下さった方(敬称略・順不同)

丸山健太	石谷草	五十嵐安雄	木下マズミ	久保田裕美	伊藤潤
井内和夫	堀川泰義	武之内教男	丸山芳彦	柳明姫	波多野淑子
柴田健次	千葉まゆみ	石田顕	リトンウ	高柳直正	齊藤乃章
江本哲也	福島シゲ	川越基督教会	中田邦雄	梅澤正人	加藤郁雄
吉崎玲子	吉村悦子	松本美里	松本忠雄	松田明美	神戸博子
水谷充徳	大塚紀子	小林栄次郎	藤井幸子	松井ふみ子	菊池貞子
菊池礼乃	柴田義之	大塚玲子	福島悟	川崎由紀子	江本哲也
山本トシミ	工藤早苗	西川真衣子	藤原克子	福島忠男	細川武
北川悦子	金喜淳	須藤和子			

(江本様からは、サンバス先生へのお礼への足しにと大口のご寄付を頂きました)

今後の日本でのイベント開催については新型コロナの収束次第となりますので現状では未定です。

◆ **ご入会・御寄付のお願い**

活動会員: 年会費5,000円(学生、未成年者 2,000円)  
 賛助会員: 年会費1口5,000円(学生、未成年者 1口2,000円)  
 法人会員: 年会費1口10万円  
 ご寄付: 2,000円以上おいくらでも

活動会員: 活動に積極的にご参加頂ける方。  
 …総会での議決 権がございます

賛助会員: 定期的にご支援頂ける方。  
 …ご支援下さった方には「日韓アジア基金  
 ニュースレター」(概ね3ヶ月毎発行)をお届けします。

**みずほ銀行口座**

支店名 駒込支店  
 口座番号 普通 1017391  
 口座名義 日韓アジア基金

**ゆうちょ銀行振替口座**

支店名 〇一九(ゼロイチキウ)店  
 口座番号 当座 00180-2-25153  
 口座名義 日韓アジア基金  
 (カタカナ表記 ニツカンアジアキキン)

<お問合せ先> (日本語でお願いします)

〒113-0021 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館(ABK)内

Tel: 090-5812-1471(庶務・会計担当 齊藤) FAX: 03-3946-7599 (ABK)

E-メール: nikka17@iloveasia2.sakura.ne.jp HP: <http://www.iloveasiafund.com>

Facebook、Twitter もご覧ください!

発行人 特定非営利活動法人 日韓アジア基金 日本 代表理事 江本 哲也